

第7回倉敷市総合計画審議会 第3分科会議事録（要旨）

会 議 名 称		第7回 倉敷市総合計画審議会 第3分科会（生活環境・防災・都市基盤）
開 催 日 時		令和2年10月6日(火) 10:00～10:53
開 催 場 所		倉敷市役所 議会棟3階 第2会議室
出席者 ※敬称略	審議会 委 員	伊東 裕紀, 塩津 孝明, 平松 恵美子, 松岡 智子, 守屋 弘志
	市職員	企画経営室長, 総合計画策定研究班員, 事務局
関係者	関係者	委託事業者
傍聴者	傍聴者	なし
会 議 次 第		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 倉敷市第七次総合計画（素案作成用資料）について <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本構想及び基本計画について（報告） (2) 倉敷みらい創生人口ビジョン及び倉敷みらい創生戦略について 3. 今後の予定について 4. その他 5. 閉会

1. 開会

2(1). 基本構想及び基本計画について (事務局説明)

2(2). 倉敷みらい創生人口ビジョン及び倉敷みらい創生戦略について (事務局説明)

審議

分科会長	本日の審議は主にみらい創生戦略についてだが、気になる点やご意見はあるか。
委員	133 頁、目標とする年について、③「市内従業者数の総数」は 2024 年となっている。他は全て 2025 年なのに、なぜ 1 年の差があるのか。
市	5 年ごとに公表される経済センサスの数値を基にしており、次が 2024 年の数値となるため。
委員	124 頁と 125 頁。真備と児島は高齢化率が高い。長寿や健康の観点から介護保険の利用率がわかると、何か違う見方ができるのではないか。
市	細かなことまで総合計画では示せないため、個別計画で比率などの詳細が出てくればと考える。また、グラフから読み取れる、高齢化率の高い真備と児島の状況から、若い世代を地域に呼び込む施策がでてくればよい。100 頁下部には、市全体ではあるが「要支援・要介護認定者数の推計」や「独居高齢者数の推移」のグラフを掲載している。さらに 104 頁では、介護予防について触れている。
委員	83 頁。水島臨海鉄道などの年間利用者数の指標では、10 年後の目標値と現状値に同じ数字が入っているがどういうことか。本当はもっと下がるけれども、頑張って維持するという数字なのか。
市	同じ 564 万人で維持に見えるが、人口が減少していく中においては、裏を返せば増加ととらえられる。現在は特にコロナ禍で公共交通の利用が減っていて、また、路線バス等が撤退していく中で大変だが、頑張って維持するという設定にしている。
市	82 頁のグラフを見ると、路線バスの輸送人員が平成 24 年をピークに減少し続けている。利用者数を維持するだけでも厳しい目標であることが見て取れる。
委員	これまでの審議の中で、委員の意見を反映しながら繰り返し修正を重ねており、わかりやすいものができる。10 年に 1 度の計画を作るのは大変だったと思う。お疲れ様でした。
市	見せ方については、まだ甘いところが残っている。これから時間の許す限り、事務局で修正していく。その後はさらにデザイナーが入って全体を整えていく予定である。
委員	それはデザインのことで、文言はこれで変わらないのか。
市	はい。ただ、今後もこうしたほうが良いというご意見があれば取り

分科会長 | 入れていくので、教えていただきたい。
高齡化社会は深刻な問題だが、倉敷市が生きがいや長寿、健康を保てる、便利で安心な地域となるとともに、若い世代に魅力のある地域となっていくことを期待したい。
事務局の皆さんには、これだけのものを作り上げるのは大変な努力が必要だったと思う。本当にお疲れ様でした。
では、本日の意見をまとめて、事務局で修正を加えていただく。これで第7次総合計画の第3分科会の審議は終了とする。

3. 今後の予定について

4. その他

5. 閉会